

ていねいな暮らしのあつたころ

佐野一彦の撮った伊深の里山



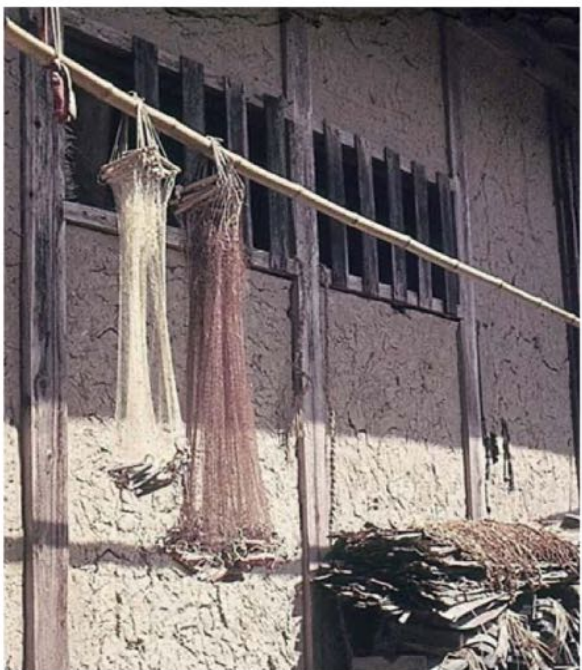
「テエナを仕掛ける」

「テエナで魚をとる」

初夏から水の冷たくなる秋まで、子どもも大人も川で魚とりをしました。

この写真は、大洞川で「テエナ」とよばれる網を使い、魚をとっている様子のもので、タモロコやカワムツなどがとれました。

佐野一彦の伊深日記には、「川に下り立ち、これ（テエナ）をかなたこなたに投げ張って、魚を狭め捕まふるなり」と書かれています。魚とりをした



「軒でテエナを乾かす」

後は、網を軒につるして乾かしました。

当時、テエナを持つている人は多くありませんでした。その中で、夏がくると毎年のように川に入って魚をとる名人がいました。とった魚は煮たり、すり身にして田楽にしたりして、村の人たちに振る舞ってくれたそうです。

酒を飲みながら、「地のもの」をみんなで食べることが、楽しみの一つでもありました。

写真 昭和39年5月29日撮影